



2012.3.30.no.1050.

ご相談はお気軽に

TELとも
3905-0970

さがらとしこ事務所

赤羽北3-23-17

(バス停「赤羽北3丁目」、メガシティ近く)

日本共産党議員団

区役所内 3908-7144

<http://www.kitanet.ne.jp/~kyoukite/>



くらしの相談室
TEL.FAX(3905)0970
さがらとしこ事務所

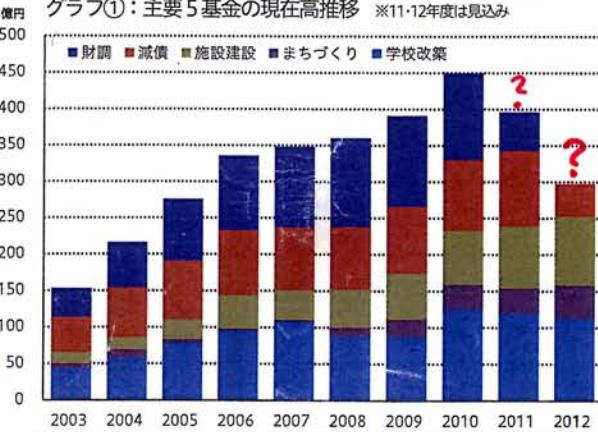
■ ルスの時は、お名前と
電話番号をおねがいします。

早いですね。年度末をむかえました。

もう、18年間つづけている赤羽西口との朝の
ごあいさつですが、4月になると新しい方々との
出会いの場になります。経済の動き、政
治の動きを敏感に伝えていたく駆前で
す。これからも、心をこめて、ごあいさつをつづけます。

予算区議会が終りました。くわしい
ご報告は「区議団ニュース 2012年春号」で
お届けします。▼下のグラフ、お覚えてますか?
野々山区議は、北区の予算編成の問題を
4点指摘しました。きょうは、その中の1つを
紹介します。文字が小さくてごめんなさい。

グラフ①：主要5基金の現在高推移 ※11・12年度は見込み



4月27日 日本共産党の演説会
ご予約受付場 小池あきら党政策委員長
池内さおり衆議院東京12区青年部
そねはじめ 前都議会議員

今回の新年度予算編成にあたり、区は財調基金の残額約68億円を一般会計に投入し、なお足りない分の約8000万円を学校改築基金から借り入れたとした「手法」をとりました。私たちがあえて「手法」とよぶのは、現在の北区の財政状況ならば、わざわざ借り入れをしなくても済む予算が組めたはずなのに、あえて区がこの方法を選択したからです。そこには区の、あるねらいが見てとれます。

それは1つに、「区の財政が大変だ」というメッセージを内外に発することです。

予算が内示された直後、マスコミが「北区財政調整基金ゼロ 岁入不足68億円取り崩し」と報じ、衝撃が走りました。区民からは「貯金が底をつけ、今後やっていけるのか」「北区は財政破たんするのか」という早合点した意見も聞かれたほどです。しかし、「財調基金ゼロ」というメッセージは、そうした誤解を生むだけのインパクトを十分持っているのです。

区の財政をどう見るのかは、予算審議でもひとつの焦点となりました。私たちは、論戦の中で「区の財政は大変だ」という見方に根拠がないことを明らかにしました。

——財調基金は見かけ上ゼロとなりますますが、主要5基金の総額では依然として300億円の水準を保っています。

——さらに、5月に出納閉鎖をすれば、財調基金自体も上積みされることは、この間の経験が示しています。財調基金の年度末残高と出納閉鎖後のかい離、すなわち上積みされた金額は、2010年度が3億3000万円、2009年度が11億9000万円、2008年度が19億6000万円、2007年度が18億円となっています。

——財政を司る区担当者の見解も極めて冷静です。私たちの質疑に対し財政課長は「決算ベースでみて北区の財政は健全」と明言しました。

以上のことから、今後、歳入の見通しが不透明という要素はあっても、現時点で北区の財政が「大変」とは言い難い状況です。にもかかわらず、「財調基金ゼロ」のメッセージを発したのは、財政引き締めの「手法」ととられてもおかしくないではありませんか。

2つに、「構造改革」路線にもとづく北区の経営改革を合理化するねらいです。

「財政が大変」の次に来る的是、「だから経営改革が必要」という論法です。後で述べるように破たんが明らかな外部化路線を反省ぬきに推し進めるために、また庁内に向けてはさらなる職員定数削減、給与削減を押しつけるために、今回の財政「手法」を「効果」的に活用しています。

3つに、新庁舎や超高層の駅前開発など十条まちづくりを「聖域」とするねらいです。

予算審議の中でわが会派は、「8000万円が歳入不足となるなら、新庁舎と十条まちづくりに積み立てる20億円のうち、一部を削減すればよいのではないか」と提案しましたが、区はどうしても必要な基金であり削減はできない、との考えを示しました。しかし、毎年積み立ててきた十条まちづくりへの10億円を、今年度は財政上の判断から見送りました。2010年度には、当初予算には計上せず、財政の見通しがたった時点での補正計上しました。こうした前例もあるだけに、新年度1円たりとも削れないというのは理解に苦します。企画課長は、今後の財政運営が不透明とする中、「庁舎、十条といえども聖域とはしない」と発言しましたが、わざわざ学校改築基金から不足分を補うとした財政「手法」は、この2つの積立金を事実上「聖域」とするものです。

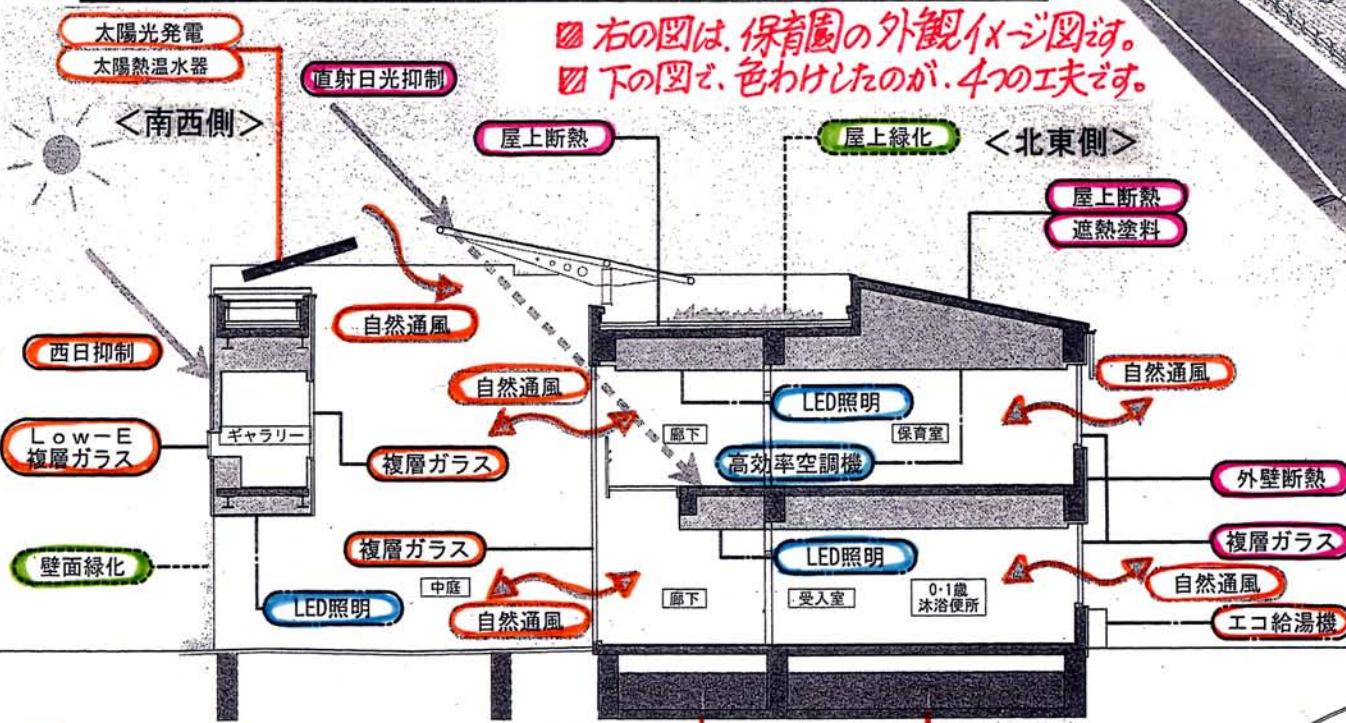
こうしたねらいを持った財政運営の「手法」はとるべきではありません。

なお、わが党は、積み立てた基金は必要に応じて区民の暮らしを支えるために活用すべきであることを繰り返し主張してきました。昨年の区議会議員選挙では、高齢化率が23区で1位となった北区で、高齢者一人あたりの予算が17位であることや、主要5基金の合計が過去最高の450億円に達したことを指摘し、「積立金は暮らし応援に」と政策を訴えました。その結果、今年度は90億円の財調基金を取り崩し、「長生きするなら北区が一番」の諸施策が充実できたことなどは、積極的に評価しています。今後も、必要な基金をふさわしく区民のために活用することを求めるものです。

*「北区は、再生可能エネルギーとして、どんな活用をされているんすか」という質問をいたしました。最新の活用計画を紹介します。

H24年建設(99名)
H25年4月開設予定
区立西ヶ原南保育園(旧外語大跡地)について…

環境にやさしい4つの工夫で、北区のモデルに



外観イメージ図

この保育園を北区のモデルにして、どれくらいの効果が出るのかを検証します。すでに、桐ヶ丘中学校(太陽光パネル、地下からの通風、ひばなど)や滝野川紅葉中学校、赤羽岩淵中学校(太陽光と熱など活用)などの改築のとき、再生可能エネルギーの導入をしています。

1. 光、熱、風など、再生可能エネルギー。

- 自然通風とやわらかな光をとりこむ工夫です。
- 太陽光発電。太陽熱温水器で給湯の補助熱源として活用。
- 雨水抑制槽の活用。
- 壁面や屋上緑化で緑をみます。

2. LED(省エネ効果の高い照明)や効率が高い空調機で、使用量をへらす。

3. 建物の熱による負荷をおさえる、軽減する。

- 内壁や外壁の断熱材を厚くする(省エネ・再エネの東京仕様2012)(=)
- 屋上にも断熱材料。遮熱(しゃねつ)塗料を使う。
- LOW-E複層ガラス
- ギャラリーに西日抑制の工夫
- テント状のひさし

